

## 2021年7月12日 聖書朝礼

「ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。」  
～ ヨハネ 1.15～16 ～

全校の皆さんおはようございます。

週末は良く休みましたか。何人かの生徒はいくつかの試合がありましたね。お疲れさまでした。詳しいことは終業式で紹介できると思います。

さて、今日から東京都は4度目の緊急事態宣言に入りました。オリンピック開催まであと11日を残している今の状況でかなり厳しい状況だと思いますが、コロナのワクチン供給が困難になってきたことも重なり安心できない状況が続いています。本来であれば、オリンピック開催を前にしている日本列島（れっとう）は、オリンピックに参加する世界の選手たちの紹介や競技の話題で盛り上がり、活気に溢れているはずの時期ですが、次々と出てくるニュースを見ると暗い気持ちになってしまうのが現実です。しかし、やはりこのままではいけないですね。私たちは現実を受け止めながら、希望を語り、よりよい未来を描いて明るく生きていきたいですね。オリンピックの選手を応援し、私たちは今まで以上にコロナ感染防止対策に協力していきましょう。そして、生徒としてやるべきことを仲間と共にしっかりやりながらスクールライフを楽しんでいきましょう。そういえば、皆さんにとって「スクールライフ」とはどういうものですか。各学年によってスクールライフの感覚は違うと思いますが、いつでも笑い合える仲間・悩みを打ち明けられる仲間がいること、切磋琢磨できる仲間がいること、熱心に授業をしてくださる先生がいて新しい学びがあること、いつでもチャレンジできる部活があること…いろいろあると思います。これらを含めて、マリアでは、マリアならでのスクールライフがあります。その中に欠かせないのは祈りではないでしょうか。岐阜県で唯一のカトリック学校でもありますが、祈りがあるからこそ私たちは、私たちの事ばかり思わず、家族や周りの事、隣の人と困っている人の事、共に住む町や世界の事を心に留め、共に喜び共に悲しむことができますし、祈りによって心の豊かな生活を送ることができるのではないのでしょうか。困っている人々のために足を運ぶことはできませんし、共に泣くことも出来ませんが、祈りを通して共に悲しみ、エールを送ることができます。そういった心ができたときにこそ、知らない人と、笑顔で自然とあいさつができますね。初めて出会った人と握手し、抱きしめることができますと思います。

祈りを大切にしましょう。祈りは心と同じく、姿勢も大切です。目を閉じて手を合わせることはキリスト教に限らず、宗教に関係なく自分のために、人のために何かを願う姿勢ですね。朝や帰りのとき皆さんの教室を回りますと、目を閉じて、手を合わせて黙祷ができない人がいます。祈りの意味が分からなければ、手を合わせて祈るという意味が分からなければ、それはできないと思います。偶然ある仏教のサイトで合掌についてこのような内容を読みました。

「右手と左手というのは同じ手でありながらそれぞれ役割があり、常に違った働きをしています。右手が箸を持てば左手はお茶碗を持ちます。右手がペンを持てば左手は紙を押さえます。また右手を私とすれば左手は相手となります。仏教では右手が私なら左手が仏様、神道では右手が私なら左手が神様となります。仏様と自分とが一つになり、神様と自分とが一つとなります。ご飯をいただく時にもまず手を合わせますね。食事をいただく時には、食料

の命と自分の命が一つになる。相手と自分とが一つになるというところから始まります。ひいてはこの世に生きるもの全ては姿形は違い、様々な役割があり、違った生き方をしていますが、決して別々のものではなく皆同じです。皆寸分変わらぬ同じ命を持って生まれて来ています。その同じ命が一つになるのです。草も木も、太陽もお星さまも、神様も仏様も皆自分と一つになるのです。そこにはなんの差別も隔たりもなく、喧嘩も、戦争もありません。それが合掌の心なのです。

両手を合わせる、両手でにぎる、両手で支える、両手で受ける、両手の愛、  
両手の情、両手合わしたら喧嘩もできまい、両手に持ったらこわれもしまい、  
一切衆生を両手に抱け（坂村真民『両手の詩』）」

夏休みのまであと数日です。今一度自分の祈りの姿、祈りの心を見つめ、今まで先輩方が大切にしてきたスクールライフをさらに良いものとして生きていきましょう。

先週は大雨で色々な地域で土砂災害がありました。特に静岡県熱海市では大規模な土砂崩れが発生し、死傷者が出ました。アンジェラスの鐘に合わせて亡くなられた方々とまだ安否が確認されていない方々のために、又被害地域の一日も早い復興のために祈りていきましょう。

